

看護実践研究センター
令和5年度 活動報告書

公立大学法人山形県立保健医療大学

目 次

学長挨拶	1
看護実践研究センター長挨拶	2
1. 看護実践研究センター概要	3
2. 地元ナース事業推進部会	4
令和5年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム	5-11
令和5年度フォローアップ研修	12-14
令和5年度看護 up to date	15-18
令和5年度相互交流研修事業	19-23
令和5年度「地元ナース事業推進部会」事業評価表	24-31
令和5年度協力病院連携会議の概要	32-35
令和5年度協力病院連携会議参加者名簿	36
令和5年度地元ナース懇談会の概要	37-38
令和5年度地元ナース懇談会委員名簿	39-40
3. 教育力向上部会	41
4. 地域連携推進部会	42-43
5. 令和5年度看護実践研究センター運営委員名簿	44
資料	
・山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営要綱	45-47
・山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規定	48-49
協力病院・施設、協力病院の位置づけ	50

令和 05 年度看護実践研究センター活動報告書の発行に際して

山形県立保健医療大学理事長・学長 上月 正博

公立大学法人山形県立保健医療大学看護実践研究センター（以下「本センター」）は、地域の医療福祉の充実に資する大学教育の内容・方法を本学看護学科とともに開発すること、山形県の看護実践水準の向上を図ること、その成果を全国・世界に発信し同様の地域性を有する看護系大学等の先遣としての役割を果たすことを目的としております。

本センターは、県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等をおこなうことにより、山形県の看護実践水準の向上を図るという目的で、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の中の「地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成」事業の一つとして「山形発・地元ナース養成プログラム」が採択されたことを契機として、平成 26（2014）年 12 月 1 日に開設されました。国からの補助が終了した令和元（2019）年度からは本学独自の事業として取組むこととなり、「地元ナース事業」に加えて、「教育力向上事業」「地域連携事業」なども本センターの活動範囲とし、対象も小規模病院等に限定せずに山形県内の看護職全体に拡大し、現在に至っております。

令和 05 年度では、本報告書にありますように、「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」では募集定員を超える受講者数を達成しました。また、「クリニックナースの看護 up to date～webセミナー」にも診療所勤務の看護師のべ 27 名の参加があり、好評を得ました。「相互交流研修」でも5日間にわたり7施設、8 名の参加者があり、本学が行っている学部学生への「地元（やまがた）探求Ⅱ」の講義にも参加し、理解を深めました。

本センターの活動は、本県のみならず、全国における諸々の保健・医療・福祉の問題に対する解決策の一助になると期待されます。今後、これまでの取り組みを継続していきながら、その成果をひろく発信し、さらに一層の充実をはかっていきたいと考えております。今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻をいただければ幸甚に存じます。

（令和 06 年 2 月吉日 記）

ご挨拶

● コロナ禍の収束とセンター事業

新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日から感染症予防法上の「5類感染症」になりました。しかし、感染状況を注視すべき状況は継続し、センター事業の対象である医療機関等への影響も続く状況となりました。

センター事業は、一昨年度、昨年度と同じく「できることをできるときに」を合言葉に、先を見通した日程調整及びリモート活用を進めてきました。センターの主要事業である地元ナース事業、教育力向上事業、地域連携事業については、ほぼ計画通りの内容を行うことができました。各事業の参加者数も伸びています。

今後、with コロナの時代のセンター事業の在り方について検討し、山形県や県医師会、看護協会と連携しながら事業に取り組んでいきたいと思っております。

● 全国への発信

日本看護協会は2年ごとに「日本看護サミット」を開催しています。今年度は「地域社会を支える看護職への生涯学習支援」がテーマでした。5名の演者によるリレートークの1つとして、地元ナース事業について発表する機会をいただきました。約2千名の聴衆（全国の看護管理者・教育研究者）に地元ナース事業を発信することができました。今回のことは、「日本看護サミット2023」の実行委員であった寒河江市立病院の総看護師長殿及び山形県看護協会のご尽力があったからこそです。あらためてお礼申し上げます。

現在、国はリカレント教育（学び直し）を強かに推進しています。今後も地元ナース事業をはじめ、看護実践力向上を目指した様々なタイプのリカレント教育を開発していきたいと思っております。

● センターの目標

本センターは、①地元ナースが地域包括ケア時代のフロントランナーとなる看護実践水準の向上を図る、②本学看護学科の教員全員を本センターの所属とする強みを生かし、地元医療福祉を強化した大学教育（授業や実習等）をセンター事業と連動させる、特色を有しています。成果を全国・世界に発信していくことや、大学教育の内容・方法を本学看護学科とともに開発し、同様の地域性を有する看護系大学への波及を目指しています。

皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

センター長 菅原 京子（看護学科教授）

令和5年度(2023年度)看護実践研究センターの概要

目的

県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県における看護実践水準の向上を図る。

看護実践研究センター職員

センター長 菅原 京子
兼任職員 看護学科教員

看護実践研究センター運営委員会

実践センターの円滑な運営を図るため、実践センターに運営委員会を置く。
実践センターに部会を置くことができる。

令和5年度看護実践研究センター運営委員

委員長 看護学科教授 菅原 京子
副委員長 看護学科教授 沼澤 さとみ
委員 看護学科教授 遠藤 和子
委員 看護学科教授 安保 寛明
委員 看護学科教授 桂 晶子
委員 事務局長 熊谷 岳郎
事務局 事務局次長 原田 彰弘

部会名【地元ナース事業推進部会】
委員名 菅原京子 佐藤志保 鈴木育子 高橋直美 齋藤愛依 鈴木龍生
<p>○小規模病院等看護職リカレント教育</p> <p>令和5年8月下旬～11月下旬に小規模病院看護ブラッシュアッププログラムを開催し13施設・22名が参加した(2名は新規施設2ヶ所から)。6名が60時間以上受講し履修証明書交付を受けた。フォローアップ研修は看護研究ステップアップに1名が参加し看護研究に取り組んだ。診療所看護職対象の看護 up to date はオンラインのみで6月と2月に開催し、計27名が参加した(テーマ:「精神状態・発達状態のアセスメント」「診療所における糖尿病のある方への治療支援～ちょこっと運動」)。いずれの事業もコロナ禍の沈静化及びウェブサイトやリーフレット等による事業周知の工夫により、昨年度よりも参加者数が増加し、小規模病院等看護職のネットワーク構築が進展した。また、山形県看護協会とも適宜連絡を取り合い、大学と職能団体の相互理解を深めた。</p> <p>○相互交流</p> <p>「病院から大学へ」の相互交流事業として令和5年10月～12月に小規模病院看護職が大学に来るプログラムを企画し、8名が参加した(2施設3名)。新型コロナウイルス感染症の影響により、学外での臨地実習への参加はできなかった。「大学から病院へ」は行わなかった。また、数年に渡り相互交流に参加してきた病院が、今年度、総合看護学実習Ⅰの新たな実習フィールドになる等、小規模病院との協働が進展している。</p> <p>○J ナースカフェ支援</p> <p>令和6年3月18日にオンライン開催で「看看連携について考えよう」のカフェを予定している。協力病院会議で会の持ち方(対象者拡大、世代別開催等)が出されたため、来年度の課題としたい。</p> <p>○協力病院会議、地元ナース懇談会</p> <p>令和6年2月21日に「連携協力病院会議」をオンラインで開催した。11病院16名及び大学から8名が参加した。2月22日には「地元ナース懇談会」を開催した。懇談会委員4名(山形県看護協会常任理事、保健所長、本学卒業生、GP経験のある市民)及びオブザーバー1名(山形県医療支援課担当者)がオンラインで参加した。大学からは7名が参加した。会議、懇談会ともにICT活用推進と共に対面開催の重要性についての意見があった。また、事業周知における県や看護協会との連携の重要性についても話し合われた。→地元ナース懇談会の評価結果は別紙参照。</p> <p>○その他</p> <p>委員が関わった研究活動として、第43回日本看護科学学会学術集会(令和5年12月)の交流集会で「地元創成看護学の展開ーリカレント教育と関連した小規模病院における実習フィールド開発」を企画・発表した。また、令和6年2月14日の日本看護協会主催の「日本看護サミット2023」で地元ナース事業を報告する機会があり、全国の約2千名の看護管理者・教育研究者に地元ナース事業の周知を図った。</p>

令和 5 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの実施結果

1. 開講科目等

科目名	単元数 (ICT 開講単元数)	時間数(時間)
看護の動向と課題	1 (1)	4.5
地域密着連携	6 (2)	13.5
根拠に基づく看護	5 (4)	22.5
看護研究の基礎	9 (6)	22.5
合 計	21 (13)	63

2. 開講日等

開講期間：令和 5 年 8 月 29 日(火) ～ 令和 5 年 11 月 28 日(火)

開講日数：14 日

3. 履修者数

22 名 (病院 22 名)

<内訳>

○申し込み時

全科目履修希望者数 5 名

(病院 5 名)

単元履修者数 17 名

(病院 17 名)

○終了時

全科目受講者数 (R5 年度履修) 3 名、(R4・5 年度履修) 3 名

(病院 6 名)

単元履修者数 16 名

(病院 16 名)

受講単元数の内訳

受講単元数	1	2	3	4~6	7~9	10~12	13 以上
人数	6	3	0	2	0	5	6

4. ICT の利用状況

・履修者：22 名中 4 名利用

・全科目履修者：6 名中 0 名利用

5. 履修証明書の交付について

全科目履修者 3 名と令和 4 年度からの受講者 3 名を合わせた 6 名について看護学科教員会議に諮り、

修了についての審議を行った。6名全員修了と認定し、履修証明書*を交付した。

*本ブラッシュアッププログラムは、学校教育法第105条に基づく「履修証明プログラム」として実施しており、60時間以上の講習を受講し、修了要件を満たした者には、本学から同法に基づく「履修証明書」が交付される。

6. 満足度・理解度等について

各講義終了後に回収した Minute Paper から、講義への取り組み、講義内容の理解度、講義の満足度を分析した。

1) 講義への取り組みについて

【講義への参加度】

・大学での受講者において、「参加できた」「どちらかといえば出来た」は、99.0%だった。

【内容の理解度】

・大学での受講者において、「理解できた」「どちらかといえば出来た」が98.7%であった。

【講義の満足度】

・大学での受講者において、「満足できた」「どちらかといえば出来た」は98.7%だった。

⇒ 講義内容や構成に関して、参加度や理解度から概ね良いと考えられる。

7. 感染対策

- ・体調不良がある方は受講しない。
- ・定期的な換気を行う。

8. 課題

- ・受講生より、勤務予定を組むために履修可否の返答を早めに欲しい、との希望があった。

9. 今後の検討事項

- ・可能な範囲で、早めに履修の可否を判定できるよう、判定方法の見直しを検討する。



令和 5 年度 履修証明プログラム・職業実践力育成プログラム

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

受講生募集要項



公立大学法人山形県立保健医療大学

看護実践研究センター 地元ナース事業推進部会

■ 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムとは

本学が独自に山形県内の小規模病院・診療所、高齢者施設等に勤務する看護職を対象に行うプログラムです。

小規模病院等の看護職の方々が地元の医療福祉の担い手としての役割を再認識し、発展的な看護を実践する能力の向上を図ることを目的としています。

なお、このプログラムは「履修証明プログラム」及び「職業実践力育成プログラム」となっています。

◆ 履修証明プログラムとは

履修証明プログラムとは、社会人等の者を対象に大学等が、一定のまとまりのある学習プログラムを提供するプログラムです。プログラムを受講し修了要件を満たした者には、大学から学校教育法に基づく履修証明書を交付することができることとなっています。

本学では、履修証明プログラムとして、「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を実施しています。

◆ 職業実践力育成プログラムとは

文部科学大臣が認定した大学、大学院、短期大学及び高等専門学校（以下、「大学等」という。）における社会人や企業等のニーズに応じた、主に社会人を対象とした実践的・専門的なプログラムです。正規課程と60時間以上の体系的な教育で構成される履修証明プログラムが対象となっています。

1 出願要件

大学入学資格を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者で、次の要件のいずれかに該当する者とします。

- ① 病床数が原則として200床未満の病院に勤務する看護師、保健師、助産師
- ② 有床又は無床の診療所に勤務する看護師、保健師、助産師
- ③ 高齢者施設又は障がい者施設に勤務する看護師、保健師、助産師
- ④ 訪問看護ステーション又は在宅ケア関連機関に勤務する看護師、保健師、助産師

*上記の要件に該当しない場合でも、学長が認めた場合は受講が可能な場合がありますのでご相談ください。

2 募集定員

20名程度

3 出願受付期間

令和5年7月3日(月)～令和5年8月4日(金)

4 受講料

無料

5 出願書類

①履修証明プログラム受講願書兼履修者登録票(写真貼付)

記入方法は別紙をご参照ください。(ご不明な点はお問い合わせください。)

②受講単元申込書

6 出願方法

願書を提出する場合は、簡易書留とし、封筒の表に「ブラッシュアッププログラム願書在中」と朱書きし郵送してください。令和5年8月4日(金)消印有効です。

7 履修許可証の送付について

出願受付期間終了後、送付します。

8 履修証明書の交付

連続する2年以内に、カリキュラムの中から合計60時間以上を履修し、修了と判定された者に履修証明書を交付します。

◆ プログラムの概要

1 名称

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

2 受講期間

令和5年8月29日(火)～令和5年11月28日(火)

*開講式及びオリエンテーションは、講習会初日(8月29日)10時から行います。

*閉講式は最終日(11月28日)の講習終了後に行います。

3 受講の方法

① 履修証明書の取得を目的としないで、単元をいくつか選択して受講することも可能です。

② 裏面のカリキュラムのICT欄に「O」のついている科目は、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業です。これらの講義(演習は除く)は、ライブもしくは開講翌日以降に視聴することが可能です。

* ICT (Information and Communication Technology)とは情報通信技術の総称です。

■ 願書の請求・提出先及び問い合わせ先

公立大学法人山形県立保健医療大学 看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳 260 番地

TEL / FAX:023-686-6614

E-mail:ns-cent@yachts.ac.jp

5 カリキュラム

ブラッシュアッププログラムは、次の4つの科目で構成されています。

科目名	単元名	単位	授業時間・担当講師名	開講日	ICT
看護の動向と課題	・看護の動向と課題	3	菅原京子・佐藤志保	8月29日(火)	○
地域密着連携	・地域医療連携の概要と現状	2	菅原京子	9月5日(火)	○
	・リハビリ職からみる地域医療連携	1	みゆき会病院 黒田昌宏		○
	・連携のためのスキル	3	NPO 法人まちづくり学校 稲村理紗	9月12日(火)	/
	・地域包括ケアシステムの現状と課題 MSW が果たす役割	1	訪問診療クリニックやまがた 五十嵐絵美	9月19日(火)	○
	・地域包括ケアシステムの現状と課題 コミュニティが果たす役割	1	地域包括ケア総合推進センター 東海林かおり		○
	・事例から地域包括ケアシステムを考える	1	五十嵐絵美・東海林かおり 高橋直美		/
根拠に基づく看護 *演習あり	・皮膚ケアの看護	3	山形大学医学部看護学科 片岡ひとみ	9月26日(火)	○
	・摂食・嚥下困難を抱える患者の看護	3	言語聴覚士 梁瀬文子	10月3日(火)	○
	・生活習慣病を抱える高齢患者の看護	3	佐藤志保	10月10日(火)	○
	・フィジカルアセスメント 呼吸器	1	佐藤志保	10月17日(火)	/
	・フィジカルアセスメント 循環器	1	齋藤愛依		/
	・フィジカルアセスメント 腹部(消化器系)	1	高橋直美		/
	・終末期にある患者の看護	3	高橋直美	10月24日(火)	/
看護研究の基礎	・看護研究の進め方	3	佐藤志保	10月31日(火)	/
	・事例研究の基礎	1	佐藤志保	11月7日(火)	○
	・量的研究の基礎	1	齋藤愛依		○
	・質的研究の基礎	1	今野浩之		○
	・倫理的配慮	1	遠藤恵子	11月14日(火)	○
	・研究発表の意義と方法	1	高橋直美		○
	・研究計画書の作成方法	1	鈴木龍生		○
	・研究計画書の作成	3	菅原京子・鈴木育子・佐藤志保	11月22日(水)	/
	・研究計画書の発表準備	2	菅原京子・鈴木育子・佐藤志保	11月28日(火)	/
	・研究計画書の発表	1			/

網掛け: 本学教員

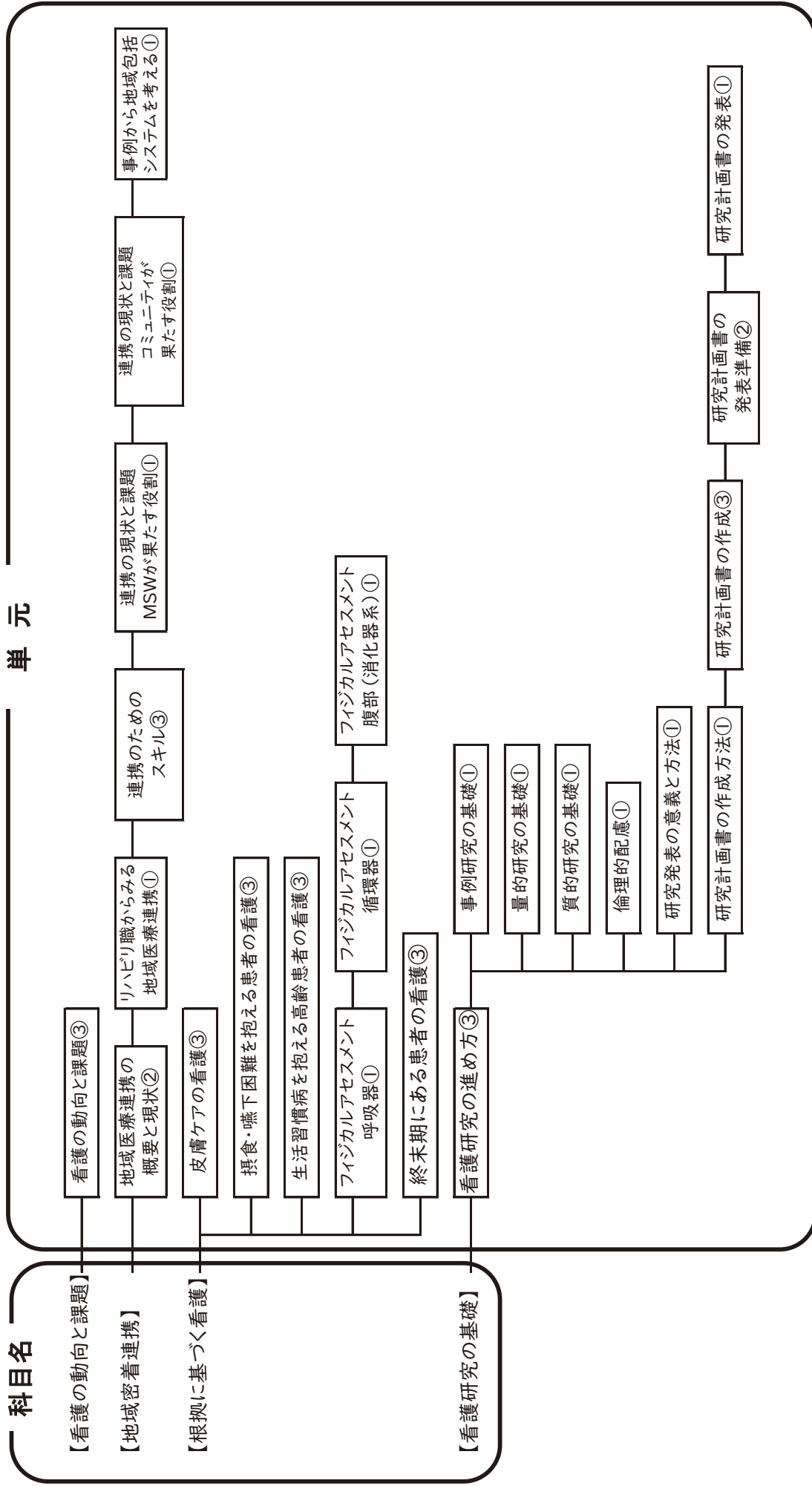
* 1日3時限の開講になります。(I:10:30-12:00 II:13:00-14:30 III:14:40-16:10)

* ICT欄に「○」のついている科目は、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型授業です。

これらの講義(演習は除く)は、ライブもしくは開講翌日以降に視聴することが可能です。

* プログラムの内容およびカリキュラムツリーは、山形県立保健医療大学 看護実践研究センターのホームページ(<http://www.yachts.ac.jp/>)にも掲載しています。

令和5年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム カリキュラムツリー



* ○内の数字は、制限数。(1制限は90分)
合計 24単元 (63時間)

令和5年度フォローアップ研修実施結果

参加者：令和4年度履修証明修了生 1名

1. 看護研究ステップアップ研修（全5回：令和5年8月30日～12月20日）

2. 概要

月1回の間隔で、対面で研修を行い、参加者が作成した計画書をもとに、ディスカッションを行い、計画書を整えた。

今年度は、質問紙と依頼文書の作成まで行い、次年度実施可能な段階まで進めることができた。

参加者からは、「看護研究について相談することが今までできなかったが、今回の研修を通して大学教員に相談することで自分の考えを整理できた」「研究方法が特にどうしたらいいのかわからなかったが、実際にアンケートを作るところまででき、実現できそうだとおもった」といった感想が聞かれた。

3. 総括及び今後の課題

今年度は、学部授業の新カリキュラムへの移行や、感染状況等により、看護研究ステップアップ研修のみ実施した。

看護研究ステップアップ研修では、開催日程は月1回と間隔があいていたが、時間にゆとりがあったためか、参加者は職場のスタッフと相談したり、自分の考えをまとめる時間ができていたようであった。

参加しやすいプログラムにするために、現在は参加条件を履修証明プログラム修了者のみとしているが、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムで該当する科目の単元をすべて修了した者も参加可能にするのはいかがか。

例：看護の動向と課題・地域密着連携 → 地元医療連携ステップアップ研修

根拠に基づく看護 → 指導カステップアップ研修

看護研究の基礎 → 看護研究ステップアップ研修

「地元ナース事業推進部会」令和5年度フォローアップ研修実施要項

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム履修証明プログラム修了者を対象に、ブラッシュアッププログラムの学びをさらに深め、現場で活用することが出来るようにフォローする研修である。

I 目的

- ・小規模病院等で展開するスタッフ教育を実施できる企画力と調整力を養う。
- ・小規模病院等における新人看護師・スタッフへの指導力を培う。
- ・発展的な看護を実践する能力の向上を図る。

II 対象者

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム履修証明プログラム修了者

III 研修開催期間・開講時間

- ・開講期間：令和5年8月～令和5年12月(5日間)
- ・開講時間：〈1時限〉10:30～12:00 〈2時限〉13:00～14:30
〈3時限〉14:40～16:10

IV 研修内容・学習方法について

今年度は、学部授業の新カリキュラムへの移行、感染状況等を鑑み、看護研究ステップアップ研修を行います。

○ 看護研究ステップアップ研修(全5回)

学習内容：研究計画書の作成、研究方法の実践、研究のまとめと発表。

学習方法：演習を通して看護研究のプロセスを展開、実践する。

Zoomでの参加可能。

回	日程	時限	具体的な内容(参加者の進捗によって変わります。)
1	8月30日(水)	1	研究計画書を作成・完成
		2	
		3	
2	9月27日(水)	1	調査の準備・実施
		2	
		3	
3	10月26日(木)	1	研究の進捗状況報告・調査の実施
		2	
		3	
4	11月29日(水)	1	研究の進捗状況報告・データ分析
		2	
		3	
5	12月20日(水)	1	まとめ、発表準備 発表、意見交換
		2	
		3	

- 1) 対面での参加も可能
- 2) 各参加者の進捗状況に応じて支援します。
- 3) 受講料無料。

V 会場

山形県立保健医療大学 多目的教育室(3階)

VI 申し込み方法

申込書(別紙)に記入し、FAX、e-mail、郵送のいずれかの方法で送付して下さい。
締め切り:8月23日(水)

VII その他

- ・感染状況に応じて、マスクの着用・手洗い等について、留意してください。
- ・体調が悪い時は、研修への参加は控えて下さい。

令和5年度 第1回クリニックナースの看護 up to date～Webセミナー 実施報告

1. 開催日時・場所

令和5年6月25日（日）13時30分～15時

山形県立保健医療大学（3階 多目的教室）Zoomを使用したオンラインライブ配信。

2. 参加者

診療所看護師 9名

3. 内容

○テーマ:精神状態・発達状態のアセスメントについて

内容:精神障害の基礎理解、精神症状のアセスメント、発達障害の基礎理解、発達障害のアセスメント、等。

担当:鈴木 龍生

○接続環境

・特に問い合わせはなく、トラブルなく配信出来た。

4. 参加者への事後アンケート結果（一部抜粋）（8名:回収率%）

・参加回数:1回…6名 2回…2名

・内容の理解度（①できなかった～⑤できた）

3…2名 4…3名 5…3名 （平均4.13）

・満足度（①できなかった～⑤できた）

3…1名 4…2名 5…5名 （平均4.50）

・集中して参加できたか（①できなかった～⑤できた）

2…1名 4…2名 5…5名 （平均4.38）

・今後の案内通知:

要…8名 不要…0名

・案内の方法

ハガキでよい…7名 ハガキはよくない…0名 その他…1名（希望についての記載なし）

・曜日と時間について（複数回答）

日…7名 土…2名 火…1名 水…1名

午前…0名 午後…7名 その他…1名

○その他、ご意見、ご感想

- ・発達障害の症状などわかりやすかった。多動と自閉症など興味深く聴くことができた。今までの研修一番集中した。
- ・出来れば、土日勤務が休みの事もあり、可能なら平日に資料を送ってもらいたかった。
- ・今回初めて参加したが、内容が広くそして詳しいお話で、興味深く聞かせていただいた。当院は小児科だが、お家の方は病気のお話はされるが、発達障害のお話をされる方は極少数。どこかで診断を受けているということもあまりお話してくれない。お話が聞けると対応も考えられると思うと残念。しかし、今できる対応をいつも考えながら子供たちとコミュニケーションをとっている。当院に来院されるお子様でも以前より発達障害と判断される方は増えているように思う。

5. 課題

- ・申し込み人数より、4名ほど少ない参加者数であった。不参加の理由は不明であった。
- ・開催が日曜のため、配布資料を前日（土曜）に送ると印刷ができないとの意見があった。

6. 今後の検討事項

- ・配布資料は金曜までにメールで送付する。

令和5年度第2回 クリニックナースの看護 up to date～Webセミナー 実施報告

1. 開催日時・場所

令和6年1月28日(日)13時30分～15時

山形県立保健医療大学(3階 多目的教室) Zoomを使用したオンラインライブ配信。

2. 参加者

診療所看護師 18名

3. 内容

テーマ:診療所における糖尿病のある方への治療支援～ちよこっと運動～

内容:糖尿病のある方が気軽に参加できる運動療法について。

担当:佐藤志保

4. 参加者への事後アンケート結果(一部抜粋)(8名:回収率44.4%)

・本日の内容は、ご期待にそうものだったか?(①そうものでなかった～⑤そうものであった)

3…1名 4…2名 5…5名 (平均4.5)

・研修方法:対面での研修を希望するか。

する…2名 しない…6名

○今後この研修で扱ってほしい内容について

- ・診療所での高血圧の患者に対するの血圧の説明など。
- ・ちよこっと運動のような感じの食事療法についてや、対応困難な患者さんの事例など。
- ・外来でできる嚥下体操指導や評価
- ・クリニックでの糖尿病患者の食事指導
- ・生活習慣、高血圧の指導
- ・脳神経疾患
- ・スティグマとアドボカシーについて
- ・抗がん剤治療を受けている方への看護

○その他、ご意見、ご感想

- ・色々な映像の紹介などがあり、具体的に分かった。
- ・運動を継続してもらうためには、ちよこっと運動がとても大事だと思った。
- ・わかりやすい、とても身近な内容で、すぐに業務に役立てることができる内容だった。
- ・クリニックでは、看護スタッフも少なく診療科も多岐にわたり、看護介入もなかなか困難だった。本日の内容はYouTubeを用いたり手軽に出来るものだった。
- ・実際に自分もやってみて、キツイと思った内容もあったので患者さんと一緒に選択できたらいいと思った。

- ・これからは「運動して下さいね」から「こんな運動はどうでしょう」といった声がけにしていきたいと思った。
- ・外来の患者様に実際自分も運動してみて、患者様に運動を提供できます。大変為になりました。
- ・運動と言うと、大変・続かないイメージであったが少しの時間でも続けていくこと、楽しみを見つける事で継続に繋がると学んだ。
- ・運動療法を勧める時の話の持っていく方や、声がけなど参考にしたいと思った。
- ・本人が可能とする運動を勧める時に参考にしたいと思った。

5.課題

- ・取り扱うテーマをもっと広げる。(内容によっては外部講師を依頼する。)

6.今後の検討事項

- ・対面での研修を希望する方もいるので、対面でも参加できるような会も企画する。

令和5年度相互交流研修事業の実施結果

1 相互交流研修事業

小規模病院等の看護師と本学看護学科教員が、お互いの業務を理解し教育力の向上を図る。

2 交流実施日程等

(1) 大学 ⇒ 病院

今年度なし。

(2) 病院 ⇒ 大学

令和5年10月11日(水)～12月14日(木) (5日間)

7病院から計8名:小国町立病院2名、公立高島病院1名、川西湖山病院1名、寒河江市立病院1名

矢吹病院1名、尾花沢病院1名、みゆき会病院1名

<研修内容>

	日程	時 限	項目	内容・方法	担当
必須	10月11日 (水)	1	オリエン テーション	相互交流の目的・大学教育について	菅原京子
		2		学内施設の見学と利用について	佐藤・鈴木
		3		教員、研修参加者同士の交流	佐藤・鈴木
* 複 数 選 択 可	10月25日 (水)	1	教材の作成	web 会議サービスを利用した授業や、動画コン テンツ・アンケート・テストの作成・活用	菅原京子
		2			佐藤志保
		3		動画コンテンツの作成	
	11月1日 (水)	1	大学教育における 看護学実習に関する講義と演習	実習の位置付け、組み立て ・大学教育における実習の位置づけや組み立て 等について	菅原京子
		2		実習受け入れの経験 ・実際に実習を受け入れた経験のある小規模病 院等の実習担当看護師より受け入れの実際 についての講義	小規模 病院等 看護師
		3		自施設での実習受け入れの検討	菅原京子 佐藤志保
	11月17日 (金)	1	教材の活用	シミュレータに触れ、操作を体験し、自施設での 研修への活用等の検討。	佐藤・鈴木
		2	講義への参加	「在宅看護概論」学部学生の授業に参加	鈴木育子
		3	演習の体験	研修会活用スキル アイスブレイクの活用と体験	佐藤・鈴木
	12月14日 (木)	1	講義・演習への 参加	「地元(やまがた)探求Ⅱ」の概要について	鈴木龍生
		2		「地元(やまがた)探求Ⅱ」学部学生の授業に 参加	外部講師
		3			

3 参加者の主な感想・意見

<研修成果・所感>

○教材の作成・活用:

- ・パワーポイントの動画を作成することができて活用できると思った。アニメーションの活用や、他の動画作成も時間があればもっと教えてほしいと思った。
- ・動画などは、集合研修ができない時に、活用できると感じた。
- ・今後は、積極的に触れ、さらなる遠隔の時代についていけるよう備えたい。
- ・google フォームの作成・活用方法など、興味深く受講した。
- ・同じように活用できる仲間を増やすことが課題だと感じている。

○大学における看護学実習:

- ・学生の学年によっても組み立て方や、介入の仕方も合わせていく必要があるので、シラバスなどもしっかり読み込んで理解することはとても大事だと思った。
- ・ブラッシュアッププログラムを受講する重要性がわかった。
- ・より良い、実習にするために、実習受け入れの準備や実習後の話し合いが重要だと理解できた。
- ・他病院の実習指導の状況などを知ることができ、情報交換ができたことはとても大きな学びだった。
- ・学生の目標達成ができるような計画に加え、自分の病院の良さもアピールでき、興味を持ってもらえるような内容になれば最高だと思った。
- ・受け入れまでの準備の大変さもあるが受け入れ後の実習を病院側もやりがいを持ち、楽しみながら行っていると感じた。

○在宅看護概論:

- ・今の学生達の家族構成はどうか、多様な情報が得られる時代で、家族の価値観も違っているのかなど、少し別視点で在宅看護を感じていた。
- ・今の学生は、在宅看護について早い段階からしっかりと学んでおり、社会背景、現場に沿った内容だと感じた。
- ・自分の学生時代にはなかった内容に、看護学も日々変化し細かな内容になってきていることを実感した。
- ・在宅看護を経験してから受ける講義は学生時代に受ける講義とは全く違って、在宅の全体像をイメージしながら納得しながら受けることができて楽しかった。
- ・家族が主でありナースは客であること、在宅という大切な場所について再確認でき、初心にかえって現場に戻れると思った。

○シミュレーターの活用:

- ・多くのシミュレーターがあり、学生が学んでいることを知った。
- ・言葉や唸声、呼吸音までと、AI が現場で活躍する日も近いのかと感じた。
- ・新人教育の現場で活用出来るように、今回の学びを大切にしたいと感じています。
- ・シミュレーターの活用は、机上の学びを実践することで、より具体的に学ぶ貴重なツールだと思った。より効果的に活用できる方法を考え、有効な方法で取り入れていきたい。
- ・シミュレータを研修で活用する方法について具体的に学ぶことができ、今後の研修の参考になった。

○研修会活用スキル:

- ・アイスブレイクで自分のことを表現したり、相手のことを知ったり共感したり、承認してもらったりと、自己肯定感が少しあがった。会って間もない方々とも、一体感や、出逢いの喜びを感じるツールにもなると感じた。
- ・今後の研修で活用していきたいと思った。

- ・実際、体験してみて、皆さんとの距離が近くなったような感じがした。
- ・「アイスブレイク」という名称やなぜ必要かなどは、実習指導者研修で学びましたが、様々な方法があることを学んだ。
- ・実際に自分たちで企画する研修や学習会では、時間的余裕がなく取り入れるにはどうしたらいいかと思いつきながら参加した。
- ・アイスブレイクを取り入れたと取り入れないのでは全く雰囲気が変わり、初対面の方と一気に距離が縮まり、グループワークなど円滑に進むことを実感した。

○地元（やまがた）探求Ⅱへの参加：

- ・地元について話し合ったり、考える機会はこれまでなかった。あらためて地元で働くことについてのやりがいや役割について振り返る良い機会になった。
- ・学生が地元について学ぶことで今後地元ナースが増え、地域看護がより充実したものになればと思った。
- ・看護師である前に、一人の人間であり、住民である。住民としての視点から地元を探究し、知ることは大切なことだと感じた。
- ・医療は生活の場にあることを、認識して、看護の視点に取り入れていることは素晴らしいと感じた。地元という価値観からもキャリア形成を考えていくことができると感じた。

<研修に対する意見・要望等>

- ・大学のシミュレーターを借りて、自施設での研修会に活用したい。
- ・機会があれば動画作成や、遠隔での研修方法等も学びたい。

4 総括及び今後の課題

- 今年度も【大学 ⇒ 病院】は、教員の派遣を行わなかった。まだ、新型コロナ感染症や他の感染症が起きており、病院は繁忙なようであった。次年度についてもこれまでと同様に、状況を見ながら可能であれば派遣する。
- 今年度の【病院 ⇒ 大学】については、10月～12月に5日間の日程で実施した。初日は参加を必須とし、4日間は選択しての参加を可能とした。参加施設は7病院で、計8名が参加した。
- 今年度も複数の病院から研修への参加があったことで、同じような規模の病院ならではの課題やさまざまな情報交換ができた。初日のオリエンテーションのなかで、体を動かすような交流を取り入れたことにより、早く距離が縮まったようであった。
- 今年度も感染症の発生状況を鑑み、病院実習への参加は計画に入れなかった。大学の看護学実習（総合Ⅰ）を受け入れた経験について小規模病院の看護師より聞き、自施設での実習受け入れを想定したプログラム作成の演習を行った。研修内容を充実させることにより、病院実習への参加ができなくても補えると考えられた。今後は、学内実習に関する内容を取り入れていきたい。
- 今年度は、学部（1年次）授業の「地元（やまがた）探求Ⅱ」の講義に参加した。地元で就業した卒業生の話を聞き、地元で働くことやキャリアデザインについて考える講義である。参加者からも自身のキャリアや看護観などを話していただき、学生と参加者双方にとって、地元で働く意義、キャリアを積むことなど考える、良い機会となっていたようであった。次年度も、このような機会を入れたい。

文責：佐藤志保

「地元ナース事業推進部会」令和5年度相互交流研修実施要項

(小規模病院等看護師用)

I 相互交流の目的

小規模病院等の看護師と本学看護学科教員が、お互いの業務を理解し教育力の向上を図る。

II 到達目標

1. 大学教育に関するオリエンテーションを通して、本大学における教育理念、教育課程の編成や実施の方針、人材育成の取り組みについて理解することができる。
2. 講義や演習を通して、教材の作成と活用方法を学ぶとともに、看護学実習の構造や教員と臨床指導者との連携を理解することができる。
3. 教員との意見交換を通して、自施設の特徴をふまえ、実習の受け入れに関する課題や新たな実習の展望、自施設における人材育成の課題や展望を検討することができる。
4. 大学の講義や演習を通して、学生の様子を知る。また、学生がどのような内容の授業を受けているのか理解できる。

III 対象施設

協力施設 II 施設

公立高島病院、最上町立最上病院、川西湖山病院、小国町立病院、順仁堂遊佐病院
町立真室川病院、尾花沢病院、県立こころの医療センター、みゆき会病院、
寒河江市立病院、矢吹病院

IV 対象者

対象施設に勤務しており、所属長から推薦を受けた看護職者

V 相互交流に係る主な要件

- ・研修場所までの交通費や宿泊費については病院側で対応する。

***実習への参加は、諸般の事情により今年度は中止します。**

VI 日程と具体的な内容

	日程	時 限	項目	内容・方法	担当			
必須	10月11日 (水)	1	オリエン テーション	相互交流の目的・大学教育について	菅原京子			
		2		附属図書館など学内施設の見学と活用について	佐藤志保			
		3		教員、研修参加者同士の交流	鈴木龍生			
* 複 数 選 択 可	10月25日 (水)	1	教材の作成	web会議サービスを利用した授業や、動画コンテン ツ・アンケート・テストの作成・活用	佐藤志保 鈴木龍生			
		2		11月1日 (水)		大学教育における 看護学実習に関する講義と演習	実習の位置付け、組み立て ・大学教育における実習の位置づけや組み立て等 について	菅原京子
		3					動画コンテンツの作成	
	1	実習受け入れの経験 ・実際に実習を受け入れた経験のある小規模病院 等の実習担当看護師より受け入れの実際について の講義	菅原京子 佐藤志保 鈴木龍生					
	11月17日 (金)	1		教材の活用	シミュレータに触れ、操作を体験し、自施設での研 修への活用等の検討。	佐藤志保 鈴木龍生		
					2		講義への参加	「在宅看護概論」学部学生の授業に参加
			3		演習の体験		研修会活用スキル アイスブレイクの活用と体験	佐藤志保 鈴木龍生
	12月14日 (木)	1	講義・演習への 参加	「地元(やまがた)探求」の概要について	佐藤志保 鈴木龍生			
				2		「地元(やまがた)探求Ⅱ」 学部学生の授業に参加・ディスカッション		
				3		振り返り		

◆研修の時間帯は下記のようになっています。

- ・1 時限:10:30~12:00 ・2 時限:13:00~14:30
- ・3 時限:14:40~16:10

VII その他

- ・オリエンテーションを10月11日(水)10時30分より、3階多目的教育室にて行います。
- ・研修終了後、報告書を指定の様式に記入して提出してください。
- ・状況に応じて、マスクの着用・手洗い等の感染対策に留意してください。
- ・体調が悪い時は、研修への参加は控えて下さい。

令和5年度「地元ナース事業推進部会」事業評価表

(S:計画を上回って実施している A:計画を十分に実施している B:計画を十分に実施していない C:計画を実施していない)

【リカレント教育】小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>①1-3月 令和5年度の開講時期・内容・方法の検討・決定</p> <p>②5月 募集要項送付</p> <p>③8月-11月 プログラム開講</p> <p>④8月・12月 プログラム前後調査 対象:全科目履修生 プログラム前調査項目: ・期待していること ・身につけたい力 ・学びの活用 ・興味関心の高い単元 プログラム後調査項目:</p>	<p>①令和4年度連携協力病院会議で得た要望や、令和4年度全科目履修生の意見や感想を参考に、令和5年度のプログラム内容の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回(3コマ/日)開講 ・開講期間:8月下旬~11月下旬 ・単元内容の一部変更 <p>②募集要項を対象施設287ヶ所に送付した。</p> <p>③13施設から22名の受講申し込みがあり、その内2名は、新規施設2ヶ所からの申し込みであった。</p> <p>※新規施設:白鷹町立病院、酒田東病院</p> <p>昨年度から受講している人も含め、履修証明プログラム(60時間)で履修証明書交付を受けた修了生は6名であった。</p> <p>④受講前調査では、本プログラムに対し個々の知識を深めたいという思いの他、講義や受講生との交流を介して小規模病院がいかに地域や多職種と連携を図っていくか今後のあり方を学びたいといった期待が示されていた。</p> <p>受講後調査では、小規模病院が担う役割や地域医療連携に関する新しい情報などを得る機会となったと共に、看護師として知識を深める機会になったと評価していた。今後への要望と</p>	<p>【成果】 新型コロナウイルスの5類感染症への移行や感染者数の低下等が影響し、昨年度に比べ、参加施設数ならびに参加者数の増加が図れた。また、対面とオンラインを組み合わせたハイブリット開催としている単元が多いことで、遠方の施設からの参加のしやすさや勤務の合間で受講ができたこと、対面からオンラインに急遽切り替えたいという場合でも受講ができたことなどが、受講生の満足度の高さにつながったものと評価する。</p> <p>受講生の学びの記録からは、本プログラムが再学習や新たな知識の習得の機会になったと共に、小規模病院という同じ規模の病院に所属している看護師同士であることが活発なグループワークにつながり、同ような悩みを抱えている共通性を実感する機会になっていった。また、受講後の調査には、受講生の施設内での立場によって、本プログラムへの参加目的が異なる中、各々が多くの学びを得て、今後の看護実践につなげようとする意欲が現れていたことから、意義深いプログラムになったものと評価する。</p> <p>【課題】 プログラムの履修の可否は申し込み後、諸手続きを経て受講生に通知しており、時間を要している現状にある。受講生の勤務調整に配慮する上でも時間短</p>	A	A

<p>・期待に応える内容か ・興味関心が高かった単元 ・新たに学びたいこと ・改善点・要望</p> <p>⑤2-3 月 次年度プログラムの検討</p>	<p>して、現在学生が学んでいる看護教育の現状や認知症看護、感染対策などの学び機会その他、勤務調整のため、履修の可否の返答を早めに欲しいとの要望があった。</p>	<p>縮を図る必要がある。</p> <p>受講後のミニッツペーパーに疑問に思った点や要望の記載があった場合には、講師に回答を求め、後日受講生に返答する対応をとっている。しかし、返答までに日数を要することや文面での返答となっているために受講生の受け止め状況が把握できていないことは、プログラムや単元を評価する上で不十分である。</p> <p>【課題への取組方針】</p> <p>受講生からの要望を踏まえ、受講の可否の通知の時期の検討や次年度のプログラム内容の検討につなげていく。また、現在の看護教育や新人教育に関する学びの要望は、フォローアップ研修や相互交流研修の内容に含まれており、そちらへの参加を促している。</p> <p>受講生の学びをさらに高める支援として、受講後のサポート体制や方法を検討していく。</p>	
---	---	--	--

【リカレント教育】フォローアッププログラム研修

計画	実施状況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
<p>①6月 令和1～4年度にブラッシュアッププログラム修了生にフォローアップ研修案内を送付</p> <p>②8-12月「フォローアップ研修」を実施する</p>	<p>①令和1～4年度ブラッシュアッププログラムの履修修了生でフォローアップ研修未受講者19名に対し、フォローアップ研修の案内を送付した。</p> <p>②1名の参加申し込みがあった。</p> <p>〈ICT活用状況〉 ICT活用を可能とした。</p>	<p>【成果】今年度は新カリキュラムへの移行や、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、看護研究ステップアップ研修のみ開催とした。日程にゆとりを持つことができ、じっくり研究に向かうことができたようであった。次年度に調査に入ることができ、研究の準備を進めることができた。看護研究に焦点化したことで参加者も明確な目的をもって参加できていた。</p> <p>【課題】参加者数が増えない。</p> <p>【課題への取組方針】これまでは参加条件を全科目履修修了者のみとしていたが、単科目修了した者も参加可能として、条件を変更することを検討する。</p> <p>〈ICT〉 対面を希望され、全日程来学した。</p>	A	A

【リカレント教育】Jナースカフェ

計画	実施状況	成果と今後の課題	自己評価	外部評価
<p>○8月・3月 リカレント教育受講者や相互交流研修参加者を中心に、小規模病院等の看護職の交流・情報交換の場として「Jナースカフェ」を開催。</p>	<p>令和6年3月18日(月)に、Zoomと対面のハイブリッドで開催する予定である。</p> <p>「看看連携について考えてみよう(仮)」をテーマに、ゲストスピーカーによる講演、グループワークと意見交換を行う予定としている。</p> <p>〈ICT活用状況〉 ハイブリッドでの開催を予定している。</p>	<p>【成果】令和6年3月に開催予定であり、準備を進めている。</p> <p>【課題】年2回の開催を予定していたが、今年度は1回となってしまった。実施担当者側の日程調整がつかなかったという理由があるが、担当者側と参加者側の予定のすり合わせも必要と考える。</p> <p>【課題への取組方針】連携協力病院会議において、日程や内容、開催頻度について意見を聞き、次年度の計画に活かす。</p>	B	B

【リカレント教育】看護 up to date

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>○12月・3月「看護 up to date 研修」を実施する。</p>	<p>1 回目は、令和5年6月29日(日)13:30～15:00に、「精神状態・発達状態のアセスメント」のテーマで実施した。参加者は9名であった。</p> <p>2 回目は、令和6年1月28日(日)13:30～15:00に、「診療所における糖尿病のあ る方への治療支援～ちよこっと運動～」のテーマで実施した。参加者は18名であった。</p> <p>〈ICT活用状況〉 Zoom を使用し、オンラインのみで研修を行った。</p>	<p>【成果】 過去の開催と比較し、参加者数は増加傾向にある。昨年の課題を踏まえ、過去の参加者にメールで周知することによって、リピーターの参加者が散見されるようになった。</p> <p>【課題】 参加者へのアンケートにおいて、約2割の参加者から対面開催があれば参加を希望するという返答が得られた。診療所・クリニックのナースという対象者の特性上、本学への距離も様々であり、対面参加の難しさは参加者によって異なるが想定されたため、オンラインのみの開催としていたが、対面での参加にも一定のニーズがあるため、開催方法についての再検討が必要である。</p> <p>【課題への取組方針】 希望者には対面参加可能な形での研修会開催を検討する。一方で、現地参加者とICT参加者の間で、学びについての公平性が損なわれないよう開催方法を十分検討する必要がある。</p>	A	A

【相互交流】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>①10-12月 大学教員と小規模病院等の看護職との相互交流を行う。</p> <p>②2月 相互交流を希望する小規模病院等の意向確認と調整を行う。</p>	<p>①「病院から大学へ」の相互交流を、10～12月の期間で5日間行った。参加者は、病院から8名であった。全日程への参加は1名であった。</p> <p>今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、学外での臨地実習への参加は難しいと考え、企画しなかった。</p> <p>「大学から病院へ」の相互交流は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施しなかった。</p> <p>②連携協力病院会議で、相互交流への参加の意向や意見等を聞き取りする。</p> <p>〈ICT活用状況〉 ICTは活用しなかった。</p>	<p>【成果】 これまで開催した中でも、参加者数の多い年度となった。複数の病院から参加ができたことで、小規模病院ならではの情報交換ができていた。体を動かすようなクリエイションを教員も一緒に行うことで、教員と参加者間の交流が図れた。学部の授業の「地元（やまがた）探求Ⅱ」に参加し、発言してもらうことにより、学生と参加者がキャリアデザインについて考える機会となった。</p> <p>【課題】 学外での臨地実習への参加を企画することが困難である。</p> <p>【課題への取組方針】 コロナ蔓延時は学内実習が多く生まれ、他大学ではシミュレーション教育がだいぶ取り入れられたようであった。今後は、実際に実習に参加する形ではなく、学内での実習やシミュレーション教育に関する内容を入れていきたい。</p>	A	A

【ICT活用】

計 画	実 施 状 況	成 果 と 今 後 の 課 題	自 己 評 価	外 部 評 価
<p>○リカレント教育においてICTを活用する。</p>	<p>ICTは、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム、フォローアップ研修、看護 up to date で使用または使用を予定した。また、web会議システム Zoom を使用して行った。</p> <p>①令和5年度の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム全21単元の内、ICTでの受講可能な単元は、14単元あった。今年度のICTを利用した受講者は、延べ10名であった。</p> <p>②看護 up to date は、オンライン形式でのみ行った。</p>	<p>【成果】</p> <p>室内のスピーカーシステムの性能を上げ、実施中のトラブルやストレスを軽減した。</p> <p>①ICTを利用した受講者は前年度より少なかった。これは感染症による行動制限が緩和されたため、対面での受講を希望するものが増えたためと考える。一方で、家族が感染し自宅待機となった際、ICTを利用して受講することが可能となった。</p> <p>②看護 up to date</p> <p>対象施設が希望する日程により、ICTを活用した方が受講しやすい状況にある。ICTの活用によって、村山地区以外からの受講希望者が増加しており、またリピーターも散見されるようになった。</p> <p>③フォローアップ研修ではICTは使用しなかった。</p> <p>【課題】</p> <p>②について、対面での参加を希望する方もいた。</p> <p>【課題への取組方針】</p> <p>②について、研修の内容によっては、対面とZoomのハイブリッドでの研修も企画する。</p>	A	A

【事業普及・推進】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>①ホームページ更新、ホームページコンテンツの見直し、修正</p> <p>②本事業で実施した各事業の成果や課題をまとめ、関係学会への発表や論文投稿を行う。</p> <p>③2月 連携協力病院会議と地元ナース懇談会における事業評価をホームページで公表。</p> <p>④3月 令和5年度地元ナース推進事業部会事業報告書作成・ホームページ公表。</p>	<p>①令和5年度リカレント教育に関する実施要項など、ホームページに掲載した。 大学ホームページのリニューアル後、「看護実践研究センター」のページを更新し、カリキュラムや募集要項、事業報告等を掲載した。また、補助事業の事業報告を見ることができるよう、分類して掲載した。</p> <p>②令和6年2月14日(水)日本看護サミット2023(日本看護協会・東京フォーラム)「地域社会を支える看護職への生涯学習支援」において「教育機関と地域の医療機関が連携した生涯学習支援の取り組み」を菅原京子教授が報告した。</p> <p>③3月末に実施予定。</p> <p>④3月末に実施予定。</p>	<p>【成果】 大学のホームページのリニューアルに際し、看護実践研究センターのページも新たな様式で掲載した。</p> <p>【課題】 リニューアル後の大学のホームページで本事業がわかりやすく掲載・更新されているか、定期的に見直しをはかり、見やすいように整えていく必要がある。</p> <p>【課題への取組方針】 引き続き、大学ホームページでのお知らせ欄での広報のほか、大学公式X(旧 Twitter)等を活用して地元ナース事業の広報を積極的に行う。 看護実践研究センターのページで、事業に参加した方々の声や感想等を発信し、地元ナース事業に対する興味や関心を持ってもらう。 年度中に、次年度(令和6年)の地元ナース事業の全体像(含む日程)がわかるパンフレット等を作成し、ホームページに掲載する。また、郵送・メール等で県内小規模病院等へ広報する。</p>	A	A

【事業評価】

計 画	実 施 状 況	成果と今後の課題	自己 評価	外部 評価
<p>①2月 本事業の協力施設の看護部長や各事業参加看護師を招き、連携協力病院会議を開催する。</p> <p>②2月 地元ナース懇談会開催。</p> <p>③その他</p>	<p>①2月21日(水)に「連携協力病院会議」を開催予定。</p> <p>②2月22日(木)に「地元ナース懇談会」を開催予定。 懇談会委員4名(山形県看護協会常任理事、保健所長、本学卒業生、GP経験のある市民)及びオプザーバー1名(山形県医療支援課担当者)が参加予定。大学からは8名が参加予定。</p>	<p>【成果】</p> <p>【課題】</p> <p>【課題への取組方針】</p>		

令和5年度 連携協力病院会議の概要

日時:令和6年2月21日(水)

13時30分~15時00分

オンライン会議(Zoom)

【出席者】

協力病院:

(公立高畠病院) 高橋由美、鈴木久美	(最上町立最上病院) 菅智美
(川西湖山病院) 大淵愛、栗田和希	(小国町立病院) 日下雅美
(順仁堂遊佐病院) 信夫松子、石黒恵	(町立真室川病院) 土田久美子
(みゆき会病院) 渡邊修	(寒河江市立病院) 後藤智子、佐竹美智代
(山形県立こころの医療センター) 斎藤由美	(尾花沢病院) 齊藤ゆかり、信田忍
(町立金山診療所) 長岡由美	

大学:沼澤さとみ、菅原京子、鈴木育子、高橋直美、齋藤愛依、佐藤志保、鈴木龍生、原田彰弘

【概要】

資料に基づき担当者より各項目について報告された。
その後、各項目について情報交換・意見交換を行った。

○小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

(協力病院のみなさま)

- ・ICTがあることで参加しやすく、対面もあるため選択ができてよかった
- ・大学まで距離があるため、勤務中に時間を作って参加できた
- ・今年度 BP に参加した受講者は施設から病院に転職してきた方であり、研修に参加することを喜んでいた。
- ・対面での参加であると交流の機会になる。単元履修だと横のつながりを作るのは難しいこともあるが、対面での参加は横のつながりを作ることに繋がると感じている。
- ・病院同士のグループディスカッションはよい時間になっている。プログラムの中ではやはりフィジカルアセスメントが人気な印象を受けている。
- ・研究指導は本人の満足度が高かった。
- ・参加者のリクルートや日程調整のため早めに日程の連絡がもらえると有難い。
- ・研究指導に送り出した参加者は非常に満足度が高く、次年度は研究を主体的に取り組もうとモチベーションが上がっている。

- ・院内に周知することが不足していたため、プログラムの目的なども含め周知に力をいれたい。
- ・全科目履修の認定年の期間が短いため自分の病院から全科目履修者を出すことはできていないが、単元履修生は例年参加してもらっている。
- ・研究について、客観的に評価・指導していただける機会は貴重だと思っている。
- ・対面開催だと距離の問題などから単元履修が精いっぱいであるが、単元履修で参加してもらおうと思っている。

(大学)

毎年プログラム内容を組み替えており、今年度終末期看護を取り入れた。参加した人のニーズにあっていたか？学部授業と一緒に行ったが、学部生の知識と参加者の知識の間を考えながらプログラムを組み立てる必要があった。

参加者から思っていたものと違ったというような声があがっていたら教えてほしい

(連携協力病院のみなさま)

- ・ほかの参加者や学生と意見交換することで、終末期を改めて考えることができ、内容はズレがなく学びになったと感じている
 - ・参加者の中で、うまくいかないケースを持っている人も多いと思うため、事例を扱ったりフレキションの場になるとよいと思う
- この流れの中で自分自身が持って帰り、自施設で広げていくことにつながるとしている。世代を超えたつながりが希薄になっているため、研修会を通してネットワークが作られるような機会になるとよいと思う。

(大学)

- ・認知症看護のニーズも今年度上がっていたため、来年度に反映させていきたい。

○相互交流事業

(連携協力病院のみなさま)

- ・相互交流の「教材の作成」について、タイトルからやや硬い印象を受けていたが、パワーポイントなどの使い方を教わったと参加者から聞き、ぜひ続けてほしいと感じている。

(大学)

- ・ご指摘の通り、タイトルはやや硬いが、内容として今年度はパワーポイントの使い方を扱った。具体的には、操作についての講義のあと、実際に自分の病院を紹介するパワーポイントを作成し、発表会を行った。タイトルについては、次年度検討したい。

(連携協力病院のみなさま)

- ・相互交流はネットワークづくりの場になった。学生と一緒にやり取りする時間もあり、学びになった。
- ・「大学教育における講義と演習」に関心があり参加した。学生とかかわることができ、学びになった。
- ・満足感が高い研修だった。
- ・大学を知る機会になるため、毎年 1 名は参加させたいと考えている。全日程参加は難しいが、可能な日数で参加できるようにしたい。
- ・全日程参加できなくて残念だったという参加者からの声があった。

OJ ナースカフェ

(大学から)

J ナースカフェについて、開催時期、開催頻度はどうか、内容についての希望はどうか意見をいただきたい。

(連携協力病院のみなさま)

- ・いろんな研修が重ならない時期がいいと思う。主に看護協会などの長期研修と重なると出しにくい。3 月はそういった意味では出しやすい。
- ・BP 参加者だけでなく、オープンに参加できるようにしてみてもどうか
- ・時期的には雪がない時期がよい。2、3 月でも今年の雪ぐらいなら参加できるが…その時によって異なる。
- ・BP 参加者など縛りがなければ声をかけやすいと思った。
- ・開催時期は雪がない時期だとありがたい。できれば対面で伺って交流を図りたい。
- ・開催頻度について、テーマを設けてグループワークすることは良いと思う。同じテーマで複数回するなどしてもよいのではないか。
- ・雪が少ない時期がありがたい。情報共有や日頃の思いの共有など、同じテーマで複数回開催されるとありがたい。
- ・雪が大変なので時期的には 3 月が良いと思う。人と交わることで様々な課題が見えてくることがあると思う。ちょっとしたことがヒントになるため、リラックスしながら思っているものを吐露できる場があればよいかと思っている。複数回あれば次に生きていくため、同様のテーマで複数回の企画は良いと思う。
- ・この事業について詳しくしなかったため、今まで通りでよいかと思う。ICT なら参加できるという研修もあるため、ハイブリット開催でもよいと思う。
- ・プログラム参加経験者などではなく、ある程度対象者を絞って何回か企画する、というようなのもよいのではないか。例えば若手、中堅、ベテラン、など。対面式があるとよいと感じている。
- ・開催時期は 3 月でよいかと思う。わかり次第早めの告知がなされた方が勤務の調整ができ、うれ

しい。複数回案内があるとよい。情報交換した後だと生き生きと刺激をもらって働いている印象を受けける。

- ・プログラム参加とか条件を取り除いて、対象者の層をある程度示しながら開催してほしい。
- ・雪が多いため雪の時期を外してもらおうと参加しやすい。対面の空気感も重要だと思うため、対面は入れてほしい。テーマによって参加するスタッフの対象も絞られるため、その辺も考慮して企画してほしい。
- ・雪が少ない時期がよい。ベテランばかりだが、年代のターゲットを絞ってもらおうといいと思う。

(大学)

複数回というご意見をいただいたが、同じ月に開催のイメージでよかったか確認したい。

(連携協力病院のみなさま)

- ・同月に複数の日を準備してもらおうと参加しやすいイメージである

(大学)

・ご意見を次年度の企画に反映させたい。時期は 3 月を想定しているが、複数回に分けつつ、ターゲットをある程度絞って開催したい。また、参加者の要件については再度検討したい。

令和5年度連携協力病院会議 出席者一覧

令和6年2月21日

氏名	所属及び役職	氏名(敬称略)	Zoom
公立高畠病院	看護部長	高橋 由美	○
		鈴木 久美	○
最上町立最上病院	外来師長	菅 智美	○
川西湖山病院	看護師長	大淵 愛	○
	看護主任	栗田 和希	
小国町立病院	看護部長	日下 雅美	○
順仁堂遊佐病院	副院長兼看護部長	信夫 松子	○
	看護師	石黒 恵	
町立真室川病院	総看護師長	土田 久美子	○
みゆき会病院	看護部長	渡邊 修	○
寒河江市立病院	地域医療連携室看護師長	佐竹 美智代	○
	病棟看護師長	後藤 智子	
山形県立こころの医療センター	副院長兼看護部長	斎藤 由美	○
尾花沢病院	多職部長	齊藤 ゆかり	○
		信田 忍	
町立金山診療所	看護師長	長岡 由美	○
山形県立保健医療大学	看護学科長	沼澤 さとみ	
	地元ナース事業推進部会長 看護実践研究センター長	菅原 京子	
	地元ナース事業統括担当	佐藤 志保	
	相互交流担当	鈴木 育子	
	履修証明プログラム担当	高橋 直美	
	広報担当	齋藤 愛依	
	Jナースカフェ担当	鈴木 龍生	
事務局次長	原田 彰弘		

*欠席:清永会矢吹病院・はとみね荘

令和5年度 地元ナース懇談会の概要

日時:令和4年2月22日(木)

13時30分~15時

オンライン(Zoom)

【出席者】

委員:後藤道子(公益財団法人山形県看護協会常任理事)

山田敬子(山形県保健所長会 会長)

佐藤みなみ(医療法人清永会矢吹病院)

富樫栄一(前 東北公益医科大学事務局長)

代理出席:松田真理子(山形県健康福祉部地域医療支援課看護師確保対策主査)

(敬称略・順不同)

大学:菅原京子、沼澤さとみ、鈴木育子、高橋直美、齋藤愛依、佐藤志保、鈴木龍生

原田彰弘

【概要】

各事業の実施評価について資料に基づき報告された。その後、事業ごとに協議・評価を行った。

○リカレント教育

- ・地元ナースプログラムのパンフレットに「訪問看護事業所に勤務している看護師」が入っていないようだ。「訪問看護事業所に勤務している看護師」も対象である旨をパンフレット等にも明示してほしい。訪問看護事業所に勤務する看護師に研修のニーズがあるようである。
→小規模病院等の「等」に含まれる内容について、訪問看護事業所も含まれている旨、記載しているが、もっとわかりやすいように表記方法を確認していきたい。
- ・コロナの影響を受け、病院によっては看護研究委員会をなくしたという病院があるという話をきいた。そういった病院では研究は個人でやるしかない状況となっているようである。ぜひ看護研究について学べるプログラムは是非続けていってほしい。
- ・参加者を増やすこと、この事業の位置づけ(看護師確保の視点)から考えると、紙ベースの連絡よりもネットなどのダイレクトな連絡方法がうまくいく可能性が高いのではないかと考えている。参加者の特性を考えて案内の仕方を検討する必要がある。
- ・今看護師不足が目立ち、人手の確保が難しいだけでなくできない状況にある。このリカレント教育プログラムはどのような位置づけになるのかと考えていた。山形県の看護師の生涯支援プログラムに位置付けることを目指した方がよいと思う。
- ・今後卒業する学生が急性期だけでなく、地元や地域で働くことを想定し、働いた後にも参加してもらうことを想定したプログラムを作っていく必要がある。

- 「地元ナース」の取り組みを現在の大学教育の中に取り組むことができている。地元（やまがた）探求という授業を通し、学部教育に地元で働くことの意義を考えてもらう時間としている。
- 昨年 HP のリニューアルがあった。研修会の周知についても看護協会など他の研修を運営する団体と相互に協力しあっていきたい。

○相互交流事業

- ・8名の参加者とあるが施設数はいくつだったか？また、年齢層に特徴はあったか？
 - 7施設からの参加であった。年齢は30代半ば～50代まで幅広い年代から参加があった。
- ・シミュレーション教育をするとあるが、臨床経験のある方へのシミュレーション教育はどのような内容になってくるか聞きたい
 - 割とベテランでもシミュレーション教育を受けた経験がない。若い世代は授業で扱ったことがあるから知っているかもしれない。実際に大学に来てもらい、学生がどういうシミュレーション教育を受けてきているかをお伝えできればいいかなと思っている。内容はこれから考えていきたい。

○ICT 活用

- ・評価について特に異論はなかった。

○事業普及推進

- ・4 地域ごとに看護部長会が定例で開かれていると思うため、2月14日に菅原教授が参加した「日本看護サミット」の発表内容も含め、成果を直接お伝えしてもらおうとよいのではないかと考えている。
- ・参加者の参加に関する位置づけが公務なのか自己研鑽なのか曖昧である。公務（県のプログラム）の中での派遣ということになれば、なお参加しやすくなると思う。看護部長さんとの話し合いを通しこういった内容の展開もできるようになると感じている。
- ・参加者に対するご褒美があってもよいかもしれない。自己研鑽、自分のスキルが上がった、というところでとどめるのではなく、例えば医師会のように、看護協会が総括して研修ポイントをまとめて本人に返す、など…やったことが目に見える形で残るシステム構築があるとよいのではないか。
- ・日本看護協会ではナースシップ、キャリアナースなどのシステムがありポートフォリオ的な使い方ができるようになっているが、医師会のようなポイント制はない。医師会、薬剤師会のようにマイナンバーカードと紐づけして自己のキャリアを可視化にできるようにしていこうとしている。

○その他

- ・教育力向上支援で行っている看護研究の相談支援について詳しく教えてほしい
 - 教育力向上部会では、申し込みをいただいたテーマにそって、担当教員とすり合わせしながら支援できるようにしている。随時募集を受けており、今現在2つの病院から依頼があるため相談にのっている。

令和5年度地元ナース懇談会出席者名簿一覧

令和6年2月22日

	氏名(敬称略)	所属及び役職
懇談会委員	谷嶋 弘修 (松田 真理子)	山形県健康福祉部 地域医療支援課 課長 (看護師確保対策主査)
	後藤 道子	山形県看護協会常任理事
	山田 敬子	山形県保健所長会会長
	佐藤 みなみ	医療法人社団清永会矢吹病院
	富樫 栄一	前 東北公益文科大学事務局長
	山形県立保健医療大学	沼澤 さとみ
菅原 京子		地元ナース事業推進部会長、看護実践研究センター長
佐藤 志保		地元ナース事業統括担当
鈴木 育子		相互交流担当
高橋 直美		履修証明プログラム担当
齋藤 愛依		広報担当
鈴木 龍生		Jナースカフェ担当
原田 彰弘		事務局次長

令和 5 年度地元ナース懇談会委員名簿一覧

令和 6 年 2 月 22 日

	氏名	所属及び役職
懇 談 会 委 員	谷嶋 弘修	山形県健康福祉部 地域医療支援課 課長
	後藤 道子	山形県看護協会常任理事
	山田 敬子	山形県保健所長会会長
	佐藤 みなみ	医療法人社団清永会矢吹病院
	富樫 栄一	前 東北公益文科大学事務局長

部会名【教育力向上部会】
委員名 安保寛明 今野浩之 樋谷由美子 山田カオル 佐藤志保 渡邊礼子
2023 年度 実績と課題
<p>○看護研究相談・支援</p> <p><実績></p> <p>山形県内の医療機関、小規模病院などを対象として、看護研究相談支援を継続して実施した。今年度は医療機関からの研究相談があり、2 医療機関において研究活動に対する助言を行った。</p> <p><課題></p> <p>・医療機関における研究相談は一定のニーズがあり、今後も継続することが望ましい。また、研究活動を補助する教材（資料や powerpoint）が望まれる可能性があり、検討や開発を続ける必要がある。</p> <p>また、研究活動に対するニーズが変化している可能性があり、研究活動に関するニーズを把握する必要がある。</p> <p>○看護教育力向上</p> <p><実績></p> <p>県内の看護職者を対象として、教育力向上のための研修会として「看護職者の洞察力を高める演習の展開」を企画して2024年2月16日（金）に実施した。5 医療機関から7名の参加があった。</p> <p>また、県（地域福祉推進課）の委託事業により、県内の自治体保健師を対象にした教育力向上のための研修会として（1）SOS の出し方教育の実施者養成講座とフォローアップ講座、（2）ゲートキーパー研修の実施者養成講座とフォローアップ講座を行った。（1）については12名、（2）については9名の県内の保健師が参加した。どちらも各自治体内での市民向けの啓発（教育）プログラムが実施されるようになった。</p> <p><課題></p> <p>・一機関から一日程で参加できる医療者には限りがあるため、年度をまたいで開催するなどの方が望ましいと考えられる。</p> <p>・業務改善や業務の効率化といった視点に留まらない人材育成のための視点を提供することの意義を関係機関に周知する必要があると考えられる。</p> <p>・部署内の人材育成、市民への啓発、などの領域を整理しながら教育力向上に資する方略について検討することが必要である。</p>

部会名【地域連携推進部会】
委員名 沼澤(統括), 桂・丸山・鈴木龍(高校 1 年生セミナー, ホームカミングデー), 菊地(母子保健コーディネーター人材養成研修※, 県中連携), 半田・栗田・佐藤志(特定行為) ※母子コについては遠藤恵子先生と連携
【2023 年度】 実績と課題
1. 高校 1・2年生を対象とした看護体験セミナー(委託事業)
1) 実績 令和 5 年 8 月 11 日、本学で開催。看護体験セミナー4 コースの模擬授業を実施し、県内高校 1・2 年生 123 人(村山 77 人、最上 9 人、置賜 27 人、庄内 10 人)が参加。
2) 課題 今後、継続実施する場合は、模擬授業担当教員や授業協力する在校生の確保をしたうえで、高校生が参加しやすい方法の工夫・検討が必要である。
2. 山形県母子保健コーディネーター人材養成研修会(委託事業)
1) 実績 1 回目:令和 5 年 12 月 20 日、本学(対面・オンライン)で実施。 2 回目:令和 6 年 1 月 22 日、本学(対面)で実施。 県内市町村母子保健コーディネーター、市町村保健師、今後母子保健コーディネーターとして従事する可能性のある保健師・助産師・看護師を対象とし、1 回目 42 人、2 回目 43 人参加。
2) 課題 今年度は主として対面で開催し、参加者は昨年度より増加した。研修内容はおおむね好評であった。
3. 地域医療体験セミナー(今年度は学生支援委員が担当して実施)
1) 実績 7 月 27 日、北村山公立病院で実施。 学生 22 人(1 年生 10 人、4 年生 10 人)が参加した。院内の COVID-19 感染状況により、院内見学が中止になり講義形式中心のプログラムとした。
2) 課題 参加学生は、講義内容から病院の特徴や入退院支援、多職種連携の実際等をよく理解できていた。令和 4 年度より参加者が増加した。昨年度より早い時期に開催し、対象学年を広げたことにより参加しやすくなったためと考えられる。

4. ホームカミングデー

1) 実績

今年度は、2021 年度に引き続き開催を中止した。ホームカミングデーの意義や他大学での実施状況等について情報収集し、本学での開催の目的や開催方法について検討した。

令和 6 年度は、2021～2023 年度の看護学科卒業生を対象とし、令和 6 年 7 月 27 日に zoom を用いたオンラインでの開催予定とすることとした。

2) 課題

来年度の参加者にはホームカミングデーのニーズ等について調査を行い、引き続き参加者の確保、広報方法、学内の運営委員の負担、開催頻度（毎年ではなく隔年など）、内容等について検討することが必要である。

5. 県立中央病院との連携（大学・病院連携協議会の事業計画による）

1) 実績

病院開催の公開新人研修には、4 月 24 日に 4 年生 10 名、4 月 27 日に 4 年生 3 名が参加した。令和 6 年 2 月 26 日に実施した病院開催の本学対象のインターンシップへは 3 年生 11 名が参加した。公開新人研修、インターンシップいずれも学生から好評で満足する内容であった。インターンシップは時間を半日に短縮したものの、実習では経験できない緩和ケア病棟、集中治療室、救急室等の見学があったり、認定看護師やフライトナースからの話を聞いたり、本学卒業生の新人看護師と情報交換をしたりすることが、有意義な体験となっていた。

共同研究や研修会は開催しなかった。

2) 課題

学生のニーズに合った研修やインターンシップの内容を検討し、引き続き学生の参加を促す。共同研究については、大学教員や病院看護職員への周知と働きかけを積極的に行っていく。

6. 特定行為研修に関する共同研究

1) 実績

令和3～4 年度でデータ収集と分析を行った結果は、12 月 10 日に開催された第 43 回日本看護科学学会学術集会で、4 題のポスター発表を行った。

2) 課題

特定行為研修に関する共同研究は、県受託事業から始まった研究であり、今後の継続の必要性について確認する。

令和 5 年度 看護実践研究センター運営委員会名簿

氏名	職名
菅原 京子	看護実践研究センター運営委員会委員長 地元ナース事業推進部会長
沼澤 さとみ	看護実践研究センター運営委員会副委員長 地域連携推進部会長
遠藤 和子	看護実践研究センター運営委員、 教育力向上部会（看護教員養成修了者）
安保 寛明	看護実践研究センター運営委員、教育力向上部会長
桂 晶子	看護実践研究センター運営委員、地域連携推進部会（高校 1 年生 セミナー、ホームカミングデー）
菊地 圭子	地域連携推進部会（母子保健コーディネーター、県中連携）
鈴木 育子	地元ナース事業推進部会
半田 直子	地域連携推進部会（特定行為研修）
今野 浩之	教育力向上部会
高橋 直美	地元ナース事業推進部会
槌谷 由美子	教育力向上部会
山田 香	教育力向上部会
丸山 香織	地域連携推進部会（高校 1 年生セミナー、ホームカミングデー）
齋藤 愛依	地元ナース事業推進部会
渡邊 礼子	教育力向上部会
栗田 敦子	地域連携推進部会（特定行為研修）
佐藤 志保	地元ナース事業推進部会、教育力向上部会 地域連携推進部会（特定行為研修）
鈴木 龍生	地元ナース事業推進部会、地域連携推進部会（高校 1 年生セミナ ー、ホームカミングデー）
熊谷 岳郎 （事務局長）	看護実践研究センター運営委員
原田 彰弘 （事務局次長）	看護実践研究センター運営委員

山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営要綱

制定 平成 27 年 6 月 4 日

改正 平成 29 年 4 月 1 日

平成 31 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規程（平成 26 年規程第 18 号）第 6 条の規定に基づき、山形県立保健医療大学看護実践研究センター（以下「実践センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(運営委員会の構成等)

第 2 条 運営委員会は、看護実践研究センター長（以下「実践センター長」という。）及び学長が指名した教職員で構成する。

2 運営委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の中から学長が指名する。

3 第 1 項の委員のうち、学長が指名する委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員として指名された委員の任期は前任者の残任期間とする。

4 学長は必要があると認める場合は、第 1 項の委員の他に教職員の中からオブザーバーを指名することができる。

(運営委員会の審議事項)

第 3 条 運営委員会は次の事項を審議する。

- (1) 看護実践研究センターの活動計画に関する事
- (2) 実践センターの予算・決算に関する事
- (3) 実践センターの評価に関する事
- (4) 実践センターと学内委員会等との調整に関する事
- (5) その他実践センターに関する重要事項に関する事

(運営委員会の会議)

第 4 条 委員長は運営委員会の会議（以下「会議」という。）を招集し、その議長となる。

2 会議は委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ開くことができない。

3 会議の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

4 会議には、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部会)

第5条 実施センターに次の部会を置く。

(1) 地元ナース事業部会

- イ 小規模病院等看護職リカレント教育及び相互交流に関すること
- ロ 学士教育課程との連携に関すること
- ハ 協力病院会議に関すること
- ニ 地元ナース懇談会に関すること
- ホ Jナースカフェ支援に関すること

(2) 特定行為研修部会

- イ 特定行為研修ニーズ及び指定研修機関に関する調査研究に関すること

(3) 看護教員養成講習会部会

- イ 看護教員養成講習会受託事業に関すること

(4) 教育力向上部会

- イ 小規模病院等看護研究指導に関すること
- ロ シミュレーション教育に関すること
- ハ 模擬患者派遣相談に関すること
- ニ 看護専門学校教員との共同研究に関すること

(5) 地域連携推進部会

- イ 高校1年生セミナーに関すること
- ロ 卒業生支援（ホームカミングデー）に関すること
- ハ 県立中央病院との連携に関すること
- ニ 実践センターの広報に関すること
- ホ ICT整備に関すること

2 前項各号の部会の構成員は、実践センター長が指名するものとし、うち1名を部会長に指名する。

3 各部会の会議は定期的に部会長が招集するものとする。

(部会長会議)

第6条 実践センター長は、必要に応じ各部会長で構成する部会長会議を開催するものとする。

2 部会長会議では、各部会における実施状況の報告や各部会間の調整事項等について協議する。

(庶務)

第7条 運営委員会の庶務は、実践センターにおいて処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の実施について必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成27年6月4日から施行する。
- 2 山形県立保健医療大学看護実践研究センター委員会要綱（平成27年2月3日制定）は廃止する。
- 3 第6条第1項の各部会のメンバーについては、「山形発・地元ナース養成プログラム事業」の助成期間にあつては、それぞれ同事業における「リカレント教育チーム」、「看護研究相談・支援チーム」及び「ICT活用チーム」のメンバーとし、部会長は同チームリーダーを充てるものとする。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月1日改正）

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規程

平成 26 年 10 月 31 日

規程 第 18 号

改正 平成 31 年 4 月 1 日規程第 4 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人山形県立保健医療大学の組織及び運営に関する規則（平成 21 年規則第 1 号）第 7 条第 2 項の規定に基づき、山形県立保健医療大学看護実践研究センター（以下「実践センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 実践センターは、県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県における看護実践水準の向上を図ることを目的とする。

(業務)

第 3 条 実践センターは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 看護職を対象とした実習指導力養成教育
- (2) 看護職を対象とした実践力向上のためのフォローアップ教育
- (3) 看護研究に関する相談・指導等の支援
- (4) 看護実践・研究に関する情報発信
- (5) その他実践センター長が適当と認めた業務

(職員)

第 4 条 実践センターに、実践センター長、兼任職員及び必要な職員を置く。

- 2 実践センター長は、看護学科教員の中から理事長が任命する。
- 3 実践センター長は、第 3 条各号に定める業務について掌理する。
- 4 実践センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 5 実践センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 兼任職員は、看護学科教員及び事務局職員をもって充てるものとする。

(実践センター委員会等)

第5条 実践センターの円滑な運営を図るため、実践センターに運営委員会を置く。

- 2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。
- 3 実践センターに部会を置くことができる。

(委任)

第6条 この規程に定めるもののほか、実践センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

この規程は、平成26年11月1日から施行する。

附 則 (平成31年4月1日改正)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

○協力病院・施設

令和6年3月現在

病院等名	所在地	病床数	主な診療科
公立高畠病院	高畠町大字高畠 386	130	内・外・整形・婦・小
最上町立最上病院	最上町向町 64-3	60	内・外・整形・婦・眼
川西湖山病院	川西町大字下奥田 3796-20	109	内・整形・
小国町立病院	小国町あけぼの一丁目 1	45	内・外・整形・婦・小
特別養護老人ホームはとみね荘	高畠町大字高畠 303	-	
順仁堂遊佐病院	遊佐町遊佐字石田 7	84	内・外・小・婦・リハ
町立真室川病院	真室川町大字新町 469-1	55	内・整形・耳鼻
尾花沢病院	尾花沢町大字臈気 695-3	152	内・消・精内・心内・リハ
山形県立こころの医療センター	鶴岡市茅原字草見鶴 51-1	213	精・心内・自動・思春期精神
みゆき会病院	上山市弁天二丁目 8-11	183	内・整形・小・歯・放
寒河江市立病院	寒河江市大字寒河江字塩水 80	98	内・整形・外・眼・皮
町立金山診療所	金山町金山 548-2	0	内・外・小
矢吹病院	山形市嶋北四丁目 5-5	40	内・外・腎臓内科・放・消

○協力病院の位置づけ

内容	協力病院等	以外
リカレント教育企画参画	○	—
リカレント教育受講	○	○
大学との相互交流	○	—

看護実践研究センター
令和5年度 活動報告書

令和6年3月発刊

発行 公立大学法人山形県立保健医療大学 看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳 260 番地

TEL・FAX 023-686-6614